

1 主題

主体的に学ぶ東桜っ子の育成

—「できた!」「わかった!」「こうしたい!」という「振り返り活動」を通して—

2 研究のねらい

名古屋市では、子どもが将来の夢を抱き、他者と協力しながら学びを一步一步確実に進めることができるよう、「ともに学び 自分らしく生きる」を名古屋市学校教育の努力目標と定めた。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう、人間性等」の3つの柱をバランスよく育成することを通して、児童に「生きる力」を育てることが求められている。

本校は、平成31年度より「深い学びの実現」を目指して研究を進めてきた。昨年度は、特に「対話活動の充実」に重点をおいて取り組んだ。児童は、対話的な学びの中で新たな考えに気付いたり、協働的な活動に取り組む中で他者との関わりに自信をもったりすることができるようになってきた。

その一方で、教科学習に目を向けると、与えられた課題に対して、「素早く取り組み、次の課題を待つ児童」と「課題解決が困難で、教師の支援を待つ児童」の二極化が進んでいる場面が見られる。こういった受動的な一斉授業においては、万事が予測困難な未来社会を生き抜く資質・能力を児童に身に付けさせることは難しいことが予想される。

そこで、本年度は、研究主題を「主体的に学ぶ東桜っ子の育成」とする。ここで目指す児童の姿は、授業中に何度も挙手をして発言したり、ノートいっぱい自分の考えを記述したりする姿ではなく、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い（続けて、何度も、最後まで）取組を行おうとしている姿や、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする（学んだことを生かして～する）姿を目指す。これらの姿とは、学習のPDCAサイクルを学習者自身が回す姿であり、学習の中に、「児童が自ら課題を設定する場面（P）」「自らの学習の進め方を試行錯誤する場面（D）」「児童が自らの学習状況を把握する場面（C、A）」を意図的に設けていく必要がある。本年度は特に、算数科の学習を中心に、「前時の振り返りを生かし、子ども自らが行う本時の課題の設定」と「授業終末の振り返り活動の充実」を意識して授業研究を行っていくとともに、主体的な学びにつながる振り返り活動の在り方についても追究していく。

3 研究の内容

(1) 実践を進めるにあたっての教師の姿勢

研究の基盤となる「学習のPDCAサイクル」(★重点「C、A」)を通して、児童の主体的に取り組む態度を育て、考える楽しさ、分かる喜びを感じさせたいと考える。

○ PDCAサイクルを意識した授業改善

★ 「児童が自ら課題を設定する場面（P）」(主に導入場面)では、児童自らが、これまでの学習を振り返り、何を課題として取り組んでいくのかを考えるための支援を行う。

- ・ 「自ら学習の進め方を試行錯誤する場面（D）」としては、教師の指示や説明に沿って展開する画一的な一斉授業だけではなく、個に応じた課題解決や自分のペースで学ぶことができるきっかけ作りや例示等の支援をする。

★ 「児童が自らの学習状況を把握する場面（C、A）」(主に「授業終末の振り返り活動」)では、児童に学習の過程を振り返らせ、内面の変化を表出させていく。そこでは、分かった(できた)ことだけではなく、『学んだことを学習や生活に生かそうとしているか』にも重点をおいて取り組んでいく。

<振り返り活動を充実させるための手だて>

- ・ 前時の振り返りを生かし、子ども自らが本時の課題を設定する導入部分の工夫
- ・ 次時につながる振り返り活動の工夫

(2) 具体的な実践の進め方

ア 1学級1授業実践

【位置付け】

主体的に学ぶ児童の育成を目指して、1学級1授業実践を行い、その成果と課題を次の実践につないでいく。単発の学習ではなく、単元構想を練った学習の1授業を公開する。(公開する授業は、単元のどの場面でもよい。)担任は算数科、専科指導教員は担当教科で実践を行う。

【前期・後期実践について】

学年で前期(5～9月中旬)と後期(10月～1月中旬)に分かれて実践を行う。

【事前・事後検討会について】

事前検討会は、部会が責任をもって行う。あらかじめ、検討の観点を授業者が提示して、30分を目安に会を行う。また、同学年の他学級で、努力点の指導案を使った授業を行い、手立ての有効性や授業の流れについて検討を行うことが望ましい。

事後検討会は、原則、授業実践を行った日の午後に行うこととする。事前検討会で取り上げた観点のみの検討とし、30分を目安に会を行う。成果と課題を明らかにし、できる限り、その日のうちに文章化して推進委員長に報告する。なお、該当学年以外の人、自由に検討会に参加して良いこととする。

【指導案について】

略案形式とし、事前検討会時に検討する。その後、他学級での授業実践(模擬)を踏まえて学年で検討し、完成させる。前日には、資料を添えて全職員の机の上に配布することとする。

【スケジュール管理について】

2週間前までを目途に、事前検討会、事前授業日(他学級での実践)、実践の実施希望日を決め、推進委員長に報告する。その後、推進委員長と教務主任で日程を調整し、授業者に伝える。授業者は、決定日時を職員室内のホワイトボードに記入したり、掲示板に書き込んだりして全体に周知する。

【授業の観察について】

授業実践者の部会は必ず観察することとする。同学年は写真撮影を行う。(授業者は、事後の報告を念頭に、あらかじめ記録してほしい場面を伝えておくとよい。)それ以外の観察者については、自由に参加して良いものとする。

イ 全体授業

【実践者】

- ・ 2学期に、全校で1人代表者が行う。

【授業づくり】

- ・ 授業者の所属する部会において、授業づくりを行う。(推進委員長・推進委員も参加する)
- ・ 指導案は、略案形式とする。

【事前・事後検討会】

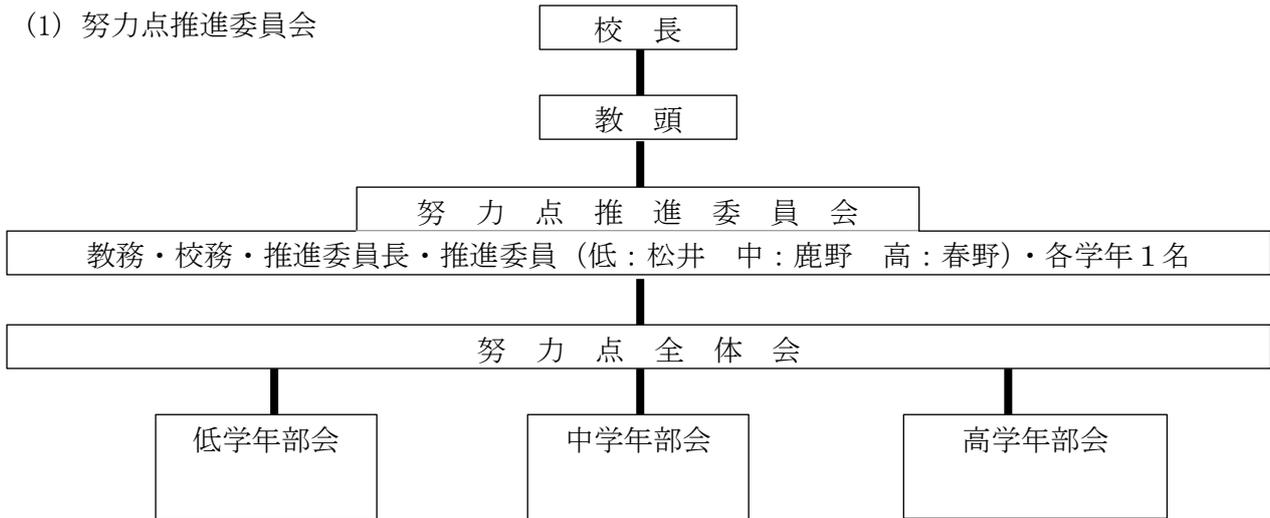
- ・ とともに全体で行う。
事前では、指導案をもとに、検討の観点を授業者が示し、検討を行う。
事後では、検討観点を絞り、児童の変容をもとに、手立ての有効性の検証を行う。

ウ 保護者への周知

授業実践での取組の様子を、写真を効果的に活用して周知するようにする。

4 推進組織

(1) 努力点推進委員会



- ・ 教務主任・校務主任・推進委員長・低中高学年で選出された推進委員で組織する。
- ・ 研究主題・推進計画・運営方針の立案、決定を行う。
- ・ 推進委員は、推進委員会で決定内容を部会に伝え、部会の状況を推進委員会で発表する。
- ・ 推進委員で、協力して研究収録を作成する。

(2) 部会

- ・ 推進委員を中心に、実践時期の計画を立てる。
- ・ 指導案について話し合い、検討する。
- ・ 指導案は、事前検討会実施時に、参加者に配布する。
- ・ 事前検討会終了後、各自、指摘を入れて授業者に還元する。
- ・ 授業者は、指摘を受けて最終案を作成し、前日には全員に指導案を配布する。

(3) 全体会

- ・ 全体での意思統一を図る。
 - ・ 代表授業の事前・事後検討会を行う。
 - ・ 実践のまとめを行う。
 - ・ 研究集録は、各学年で担当箇所を作成→決裁→印刷を行った上で、推進委員に提出する。
- ※ 決裁の順序は、学年→部会の推進委員→推進委員長→校務→教務→教頭→校長

5 年間計画

令和4年度 学校努力点年間スケジュール		
会の名称と日にち		内容
4月5日(火)	・努力点推進委員会	・今年度の研究テーマについて
4月6日(水)	・努力点全体会	・今年度の研究テーマについて
4月14日(木)	・努力点部会協議	・部会ごとに計画立案、手だての検討
9月22日(木)までに中間報告書を提出		
9月29日(木)	・努力点全体会	・中間報告会(前期実践の報告)
11月17日(木)	・代表授業事前検討会	・代表授業の検討
11月24日(木)	・代表授業 ・代表授業事後検討会	・授業参観 ・事後検討
1月19日(木)までに最終報告書を提出		
1月26日(木)	・努力点全体会	・最終報告会(後期実践の報告)
3月17日(金)	・努力点推進委員会	・来年度に向けて